

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 4 月 2 日作成)

委員会名	持続型居住小委員会	主 査 名：初見 学
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会	委員長名：服部 岑生
設 置 期 間	2000 年 4 月 ~ 2004 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	持続可能な開発が前提となりつつある昨今、建築学においてサステナブルハウジングを捉える視座や射程、課題とはなにかを明らかにし、日本におけるサステナブルハウジングの基礎を問う。	
委員構成 (委員名(所属))	在塚礼子(埼玉大学)、石倉健彦(都市基盤整備公団)、井出 建(環境計画機構)、大月敏雄(東京理科大学)、菊地成朋(九州大学大学院)、小浦久子(大阪大学)、後藤 治(工学院大学)、斉藤広子(明海大学)、佐々木誠(東京工芸大学)、高田光雄(京都大学)、田上健一(九州芸術工科大学)、初見 学(東京理科大学)、真野洋介(東京理科大学)、横山俊祐(熊本大学)	
設置 WG (WG 名:目的)	持続型居住基礎研究WG:研究懇談会資料の企画・作成	
2003 年度予算	263,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	20030601・13 名、20030623・22 名、20030710・4 名、2030905・多数(学会懇談会)、2040114・9 名
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>・6 月から 7 月の委員会にて学会での懇談会の開催の企画・資料集の体制整備を行った。</p> <p>・学会大会において「持続型居住考」と題して懇談会を開催した。初見(敬称略)による全体説明の後、大月は趣旨説明でこれまでの委員会活動により得られた知見を発表した。主題解説では、まず小浦により変化を受容する持続について都市をベースに説明がなされた。そのなかで主体として「地域」という単位が担保されていない現況の指摘があった。横山は公営住宅の建て替えを対象にして、主体の連続性や建て替えのプログラムの重要性を説き、「領有性」、「環境親和性」、「集住価値」というキーワードを提示した。齋藤は環境における管理・マネジメントの有用性をマンションを事例に解説し、プランニングにマネジメントを位置づけるよう説いた。最後に寺川により、まちづくりやその一環の集合住宅づくりの実例をもとに、さまざまな主体を結びつけることの有効性が提示された。討論では主体や場所、時間などさまざまなもの同士の「関係性の構築」がポイントだという認識が得られた。</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>建築学という分野における広がりや視点の共有ははかれた。委員間では、視点を確認しあい、共通の視点をもとに今後、研究活動や実務が行われていくことが確認された。</p> <p>達成できなかった点として、他分野(社会学、環境学、政治学など)と接点を持つに至らなかった点があげられる。他分野や実務との連携が今後の課題である。</p>
その他評価すべき事項	6 回にわたるミニシンポジウムを開催するなかで、若手研究者と学生らによる企画・整理・執筆で資料集作成が行われた。この資料は今後サステナブルハウジングを問う基礎資料となると思われる。